



行方市
総合計画・総合戦略

-2026年度～2030年度-

ごあいさつ

本市は、霞ヶ浦や北浦に囲まれた豊かな自然、美しい歴史と文化、人々の温かなつながりが息づく、魅力あふれるまちです。この自然は私たちの生活に潤いをもたらし、地域住民としての誇りを感じさせてくれる大切な存在です。さらに、農業や漁業といった営みは、長きにわたり私たちの暮らしを支えてきました。地域の祭りや伝統行事も、住民同士が文化を共有し、心を通わせる貴重な財産として、これからも大切に育んでいくべきものです。



しかし近年、本市を取り巻く環境は大きく変化しており、少子高齢化や人口減少の急速な進行に伴い、地域経済の縮小や公共サービスの維持といった課題が浮き彫りとなっています。このような課題に立ち向かうためには、市民一人一人が安心して暮らせる「持続可能なまちづくり」を、地域が一体となって進めていくことが必要不可欠です。さらに、若い世代にとって魅力ある暮らしを提案し、定住や移住を促進する取組も重要です。

新型コロナウイルス感染症という未曾有の経験を経て、医療や日々の暮らしへの安心感の重要性が鮮明になりました。この経験を教訓に、次の危機に備える準備を進めるとともに、日常から安心感を提供できる地域社会を築き上げていかなければなりません。これらの課題を解決していくためには、市民の皆様の声を丁寧に聞き取り、具体的な施策につなげる柔軟で迅速な対応が求められています。

本市は昨年、市制施行 20 周年という大きな節目を迎えました。この 20 年間の歩みを振り返り、地域が培ってきた価値を再確認しながら、次の 20 年に向けた持続可能な未来を市民の皆様と共に描いていきたいと考えています。この取組は、豊かな自然と人のぬくもりが調和した本市を次世代へ継承していくための重要なスタート地点となるものです。

今後も市民の皆様と連携を深めながら、誰もが住みやすい、誇りあるまちを目指してまいります。どうか皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

行方市長 高須 敏美

表紙タイトルには行方市フォントを使用しています

行方市フォントは、地域ブランディングの一環として、地域の職員や子どもたち自身が「行方市らしさ」を見つめ直し、自分たちが描く未来のまちの姿を反映した制定書体を策定したものです。

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 第1編 序論 | 1 |
| 第1章 行方市総合計画の概要 | 2 |
| (1) 行方市総合計画・総合戦略とは | 2 |
| (2) 総合計画と総合戦略の一体化 | 2 |
| (3) 総合計画と総合戦略の位置づけ | 3 |
| 第2章 市の概況 | 4 |
| (1) 地勢 | 4 |
| (2) 沿革 | 5 |
| (3) 土地利用 | 5 |
| (4) 人口動態 | 7 |
| (5) 産業 | 9 |
| (6) 所得・財政状況 | 11 |
| 第2編 基本構想 | 13 |
| 第1章 行方市人口ビジョン | 14 |
| (1) 人口動向分析 | 14 |
| (2) 持続可能な地域社会を目指した関係人口の創出 | 24 |
| (3) 人口の将来展望 | 28 |
| (4) 将来人口の目標 | 29 |
| 第2章 行方市を取り巻く環境の変化 | 30 |
| (1) 社会的潮流と動向の変化 | 30 |
| (2) 行方市の特性 | 34 |
| (3) 行方市の強みと特徴 | 38 |
| 第3章 まちづくりについての「市民の声」 | 40 |
| (1) 市民意識調査の概要 | 40 |
| (2) 市民ワークショップの概要 | 44 |
| 第4章 行方市の目指す方向 | 48 |
| (1) まちづくりの基本理念 | 48 |
| (2) 将来都市像 | 50 |
| (3) まちづくりの目標 | 51 |
| 第3編 基本計画 | 57 |
| 第1章 基本計画の全体像 | 58 |
| (1) 施策の体系 | 58 |
| (2) 計画の推進体制 | 59 |
| 第2章 総合戦略 | 60 |
| (1) まち・ひと・しごと総合戦略とは | 60 |
| (2) 総合戦略の重点プロジェクト | 61 |

| | |
|-------------------------|-----|
| 第3章 分野別計画 | 67 |
| 1 健康・福祉・子育て | 68 |
| 1-1 健康づくり | 68 |
| 1-2 医療体制 | 71 |
| 1-3 地域福祉 | 74 |
| 1-4 子育て支援・児童福祉 | 77 |
| 1-5 高齢者福祉 | 80 |
| 1-6 障がい者福祉 | 83 |
| 1-7 社会保障 | 86 |
| 2 教育・文化・スポーツ | 90 |
| 2-1 幼児教育 | 90 |
| 2-2 学校教育 | 95 |
| 2-3 青少年育成 | 100 |
| 2-4 生涯学習 | 102 |
| 2-5 文化芸術 | 105 |
| 2-6 スポーツ振興 | 108 |
| 3 産業・観光・雇用 | 110 |
| 3-1 農林水産業 | 110 |
| 3-2 商工業 | 113 |
| 3-3 観光振興 | 116 |
| 3-4 定住・移住 | 120 |
| 3-5 企業誘致 | 122 |
| 3-6 雇用・就労環境 | 124 |
| 4 防災・環境・エネルギー | 126 |
| 4-1 地域防災 | 126 |
| 4-2 空家対策 | 130 |
| 4-3 生活環境保全・環境美化 | 133 |
| 4-4 ごみ処理・リサイクル | 136 |
| 4-5 自然環境の保全と共生 | 139 |
| 4-6 エネルギー・地球温暖化対策 | 142 |
| 5 暮らし・インフラ | 146 |
| 5-1 道路・河川整備 | 146 |
| 5-2 公共交通 | 149 |
| 5-3 土地利用・市街地形成 | 152 |
| 5-4 下水道事業 | 155 |
| 5-5 水道事業 | 158 |
| 5-6 公園・緑地 | 162 |

| | |
|-------------------------------------|------------|
| 6 行政マネジメント..... | 164 |
| 6-1 行政サービス..... | 164 |
| 6-2 行財政運営..... | 168 |
| 6-3 男女共同参画..... | 171 |
| 6-4 地域コミュニティ..... | 174 |
| 6-5 広域連携..... | 177 |
| 資料編 | 181 |
| 「行方市総合計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の関係..... | 182 |
| 重点プロジェクト及び基本施策指標一覧..... | 183 |
| 行方市の由来/市章/市の花・木・鳥/市民憲章..... | 190 |
| 行方市の指定文化財一覧..... | 191 |
| 策定の経過..... | 193 |
| なめがた未来のまちづくり協議会..... | 193 |

第1編 序論



第1章 行方市総合計画・総合戦略の概要

(1) 行方市総合計画とは

「行方市総合計画」は、本市における総合的な行政運営を図るための最上位計画に位置づけられます。本計画は、本市が目指す将来像の実現に向けて、長期的なまちづくりの方向性を示すものであり、計画の策定及び実行にあたっては行政だけでなく、市民や各種団体、地域などが参画・協力して取り組んでいくものです。

これまでの本市の歩みを踏まえつつ、社会経済情勢の大きな変化、特にデジタル化の進展や地球規模での環境問題への対応など、多様化する課題に的確に対応していくことが求められています。とりわけ本市においては、人口減少や少子高齢化が進行し、市全域が過疎地域に指定されるなど、極めて厳しい状況に直面しています。

このような状況の中、本計画は、行方市が将来にわたって活力と魅力にあふれ、市民一人一人が安心して暮らせるまちであり続けるための羅針盤となります。本市が有する地域資源を最大限に活かしつつ、少子高齢化や人口減少といった課題克服を図り、持続可能な地域社会を構築するための具体的な方向性を示すことを目的とします。

本計画の策定にあたっては、市民一人一人がまちづくりの主役であるとの認識のもと、市民意向調査やワークショップを実施し、その結果を反映した計画としています。

(2) 総合計画と総合戦略の一体化

本市では、「総合計画」に代わる計画として、これまで、まち・ひと・しごと創生法に基づく「行方市総合戦略」を策定し、持続可能なまちづくりを基本的な考え方として、地方創生や人口減少対策を中心とする施策を展開してきました。

「行方市総合戦略」では、“人口減少に歯止めをかける”という地方創生の大きな目的から、戦略を立てて政策を進めてきたところですが、市民一人一人の生活や身近な課題など、より広い範囲のまちづくりの指針を示す必要が高まったため、市の最上位計画であり、総合的なまちづくりの指針を示した「総合計画」の策定が必要となり、これを一体的に策定する方針としました。

これまでの「行方市総合戦略」は、総合計画における主要な施策と一致することから、「総合計画」における重点プロジェクトとして位置づけ、一体的に施策の推進を図るものとしています。

(3) 総合計画と総合戦略の位置づけ

行方市総合計画は、行方市のまちづくりの最上位計画となります。

基本構想では、まちづくりの目標となる将来像や理念を示すとともに、その実現のための体系を定めます。また、基本構想の一部として行方市人口ビジョンを策定し、将来人口目標を示します。

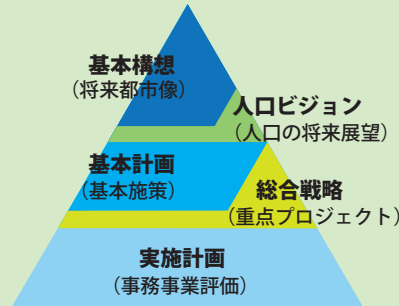
基本計画では、基本構想で定めた将来像を実現するために必要な施策の体系や目標等を示します。また、その中でも横断的に施策を実施するものについては、重点プロジェクトとして総合戦略に位置付けます。

基本構想の期間は10年とし、基本計画は5年ごとに見直すこととします。

総合計画・総合戦略の合体版の構成及び計画期間

総合計画・総合戦略合体版の構成イメージ

「総合計画」とは、地方自治体における行政運営の最上位計画であり、住民全体で共有する自治体の将来目標や施策を示し、全ての住民や事業者、行政が行動するための基本的な指針となるものです。行政運営の目的と手段を明確にするため、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層で構成されます。



「総合戦略」とは、地方創生を目指して、地域が抱える課題「まち、ひと、しごと」の問題を解決し、持続可能な社会を築くための、具体的な目標と施策を示す計画のことです。国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の考え方にに基づき、各地方公共団体（市町村）が策定・実行します。

基本構想

行方市の目指すべき将来像を設定し、それを実現するための重点施策や基本的な方向を明らかにして、まちづくり各分野の計画や施策の目標・指針となるものを示します。

計画期間：10年【2026年度～2035年度】

基本計画

基本構想で定めた将来像を達成するために、まちづくりを進めるうえで必要となる基本的な施策を具体的に明らかにしたものをとりまとめます。

計画期間：5年【2026年度～2030年度】

実施計画

基本計画に掲げた施策を年度別に具体化し、現実の行政運営の中で、どのように実施していくかを明らかにします。

計画期間：3年（毎年更新）

人口ビジョン

人口に関する分析と将来推計を行い、目指すべき人口の将来展望の設定や、それを実現するための施策の方向性を示します。

計画期間：5年【2026年度～2030年度】

総合戦略

まち・ひと・しごと創生法に基づき、地域の個性や魅力を生かしながら、デジタル技術の浸透・進展などを踏まえた地域ビジョンを再構築し、それを実現するための総合戦略を策定します。

計画期間：5年【2026年度～2030年度】

第2章 市の概況

(1) 地勢

①位置・地勢

行方市は、東京からおよそ 70km、水戸市からおよそ 40km、茨城県の南東部に位置し、北は鉾田市と小美玉市、南は潮来市、東は北浦を介して鹿嶋市、西は霞ヶ浦を介してかすみがうら市等に接しています。

市域は、東西に約 12km、南北に約 24km、面積は約 166.33 km²、霞ヶ浦と北浦を含めると 222.48 km²となります。地形的には東西の湖岸部分は低地、内陸部は標高 30m 前後の丘陵台地(行方台地)により形成され、霞ヶ浦沿岸部は概ねなだらかな地形ですが、北浦側は比較的起伏に富んだ地形になっています。また、霞ヶ浦湖岸の一部は水郷筑波国定公園に指定されており、美しい自然景観を有しています。

②交通

行方市の主要道路は、高速道路では東関東自動車道が 2026（令和 8）年度に全線開通し、市内のインターチェンジとして潮来行方 I C、行方 I C が供用開始予定です。国道では国道 354 号と国道 355 号が市内で交差し、かすみがうら市へとつながる霞ヶ浦大橋、鉾田市へとつながる鹿行大橋、鹿嶋市へとつながる北浦大橋の 3 つの大橋が架かっています。

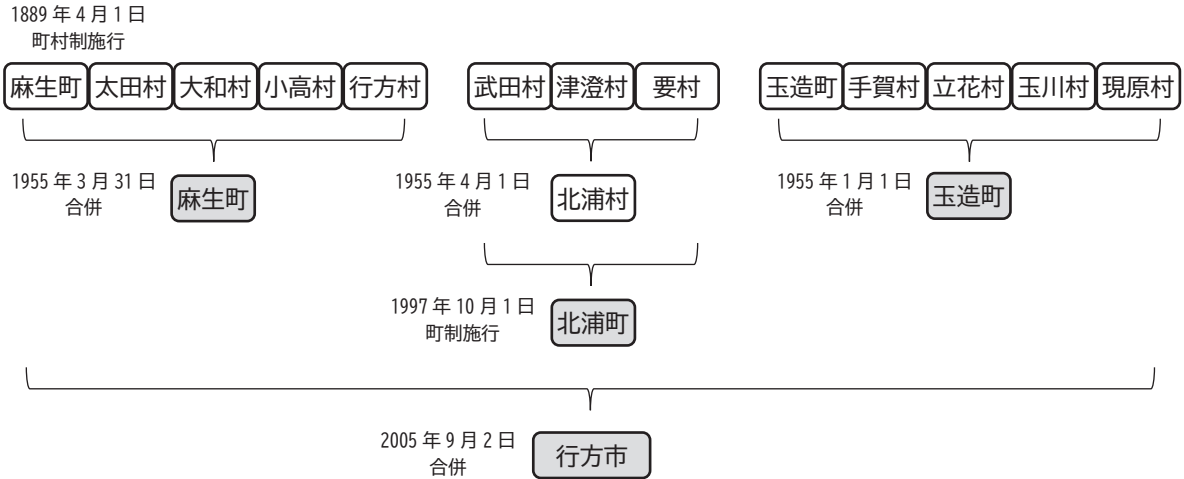
公共交通は、東京駅直通の高速バスが運行しているほか、鹿行地域、石岡駅方面、土浦駅方面への広域バスや、市内を循環する市営バスが運行しています。

成田国際空港からは自動車約 60 分、茨城空港からは自動車約 30 分圏内にあり、観光面の活性化も期待されています。



(2) 沿革

行方市の前身となる行方郡 13 町村が 1889(明治 22)年に町村制施行により成立し、その後、1955(昭和 30)年に合併により麻生町、北浦村(1997(平成 9)年から北浦町)、玉造町となり、2005(平成 17)年に 3 町が合併し、行方市として市制施行しました。



(3) 土地利用

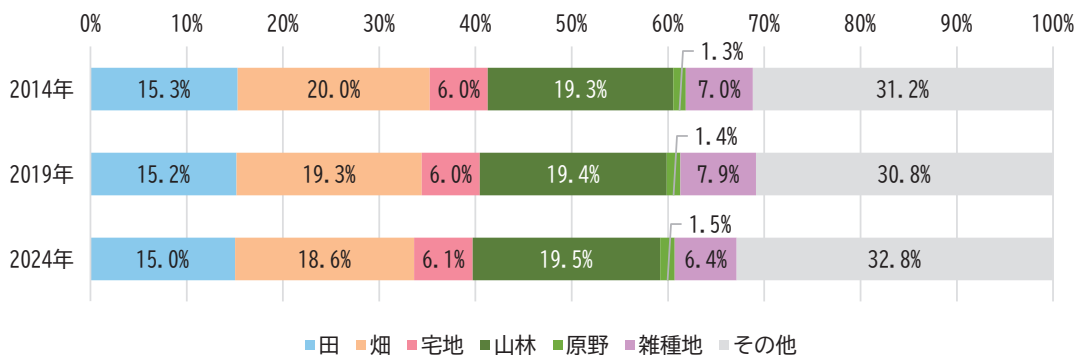
土地利用について、2024 年までの過去 10 年間の推移を見ると、農地（田・畑）は減少傾向にある一方、利用形態の変化により、宅地、山林、原野、その他の増加傾向が見られます。

■行方市の地目別土地利用面積推移

(単位：千㎡)

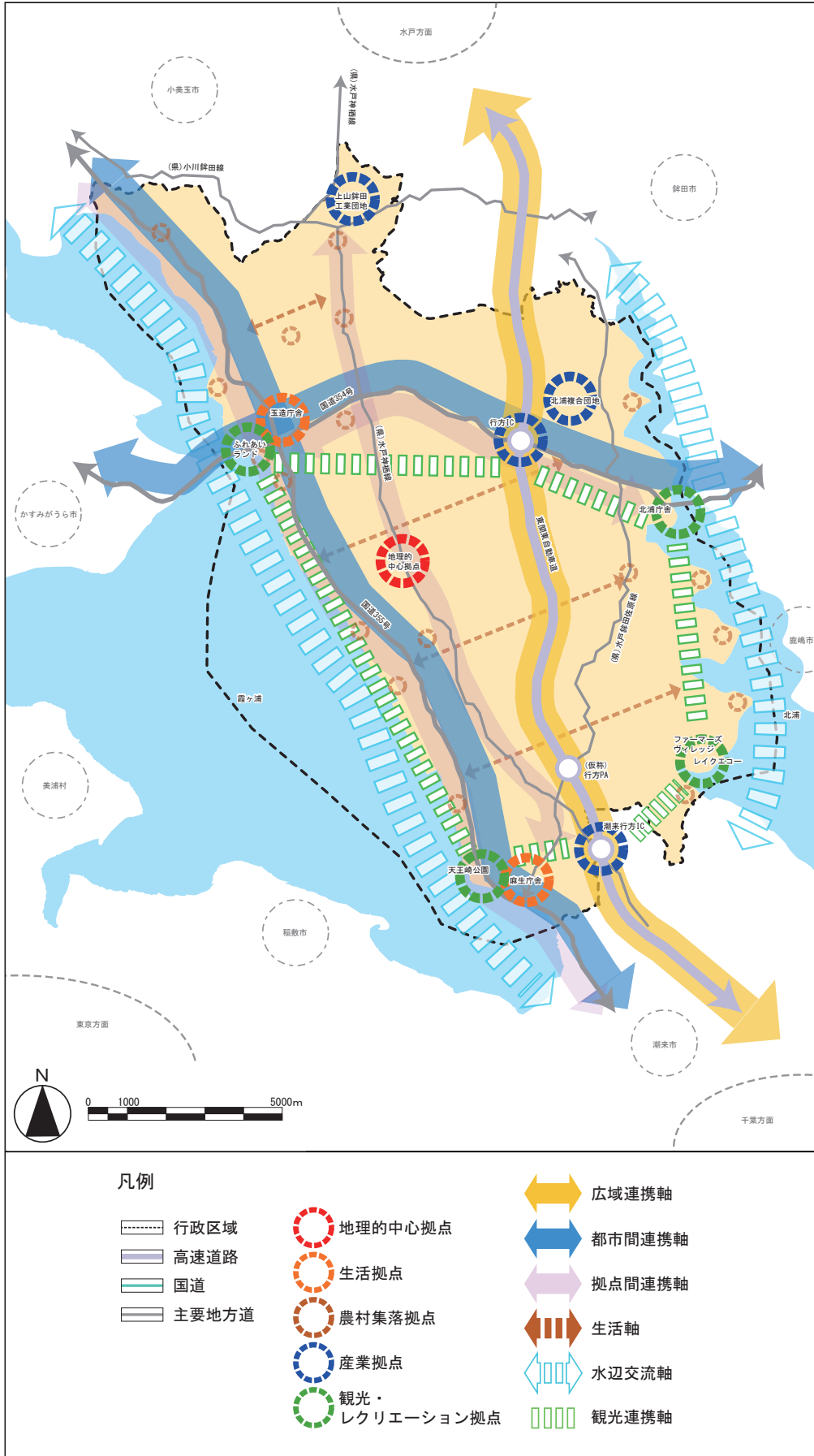
| | 総面積 | 田 | 畑 | 宅地 | 山林 | 原野 | 雑種地 | その他 |
|-------|---------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 2014年 | 222,480 | 34,055 | 44,412 | 13,351 | 42,939 | 2,896 | 15,501 | 69,326 |
| 2019年 | 222,480 | 33,770 | 42,849 | 13,384 | 43,243 | 3,142 | 17,501 | 68,591 |
| 2024年 | 222,480 | 33,414 | 41,431 | 13,491 | 43,384 | 3,380 | 14,312 | 73,068 |

■行方市の地目別土地利用割合推移



出典：茨城県市町村概況を基に作成

■土地利用構想図



(4) 人口動態

①人口・世帯数

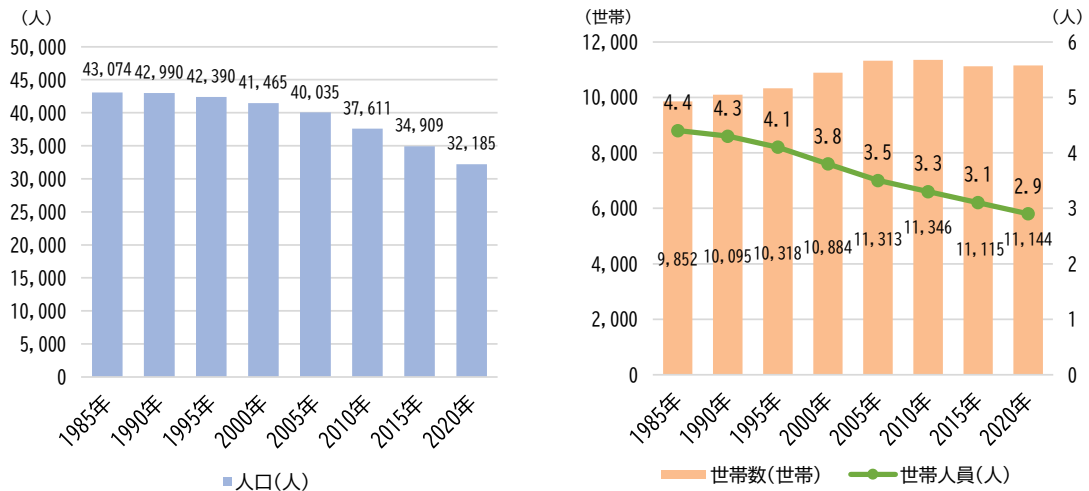
行方市の人口は、1985（昭和 60）年は 43,074 人でしたが、その後は減少傾向にあり、2020（令和 2）年では 32,185 人まで減少しています。

一方で、世帯数については 1985（昭和 60）年の 9,852 世帯でしたが、その後は増加傾向にあり、2020（令和 2）年では 11,144 世帯まで増加しています。

世帯人員については 1985（昭和 60）年の 4.4 人から 2020（令和 2）年で 2.9 人に減少しています。

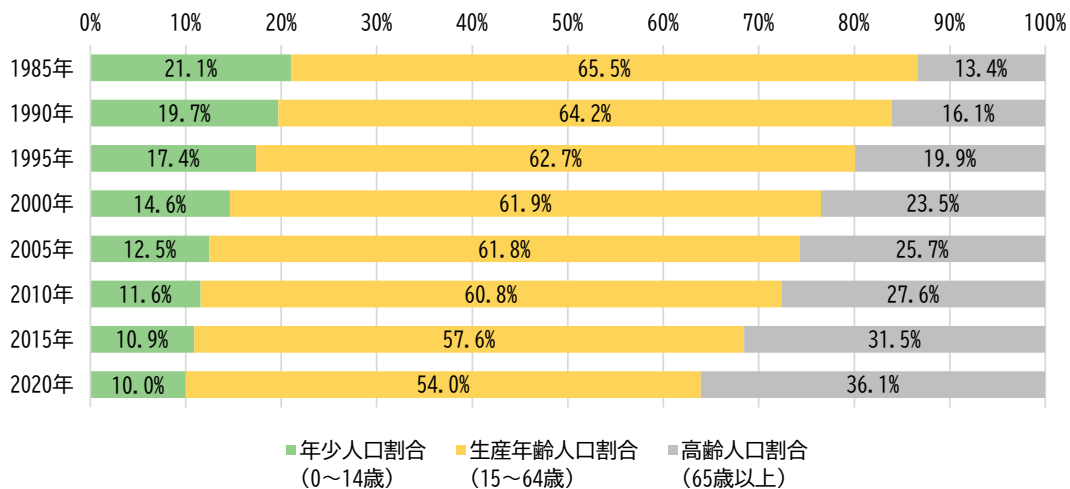
年齢 3 区分別人口割合の推移を見ると、年少人口割合と生産年齢人口割合の減少が続く一方で高齢人口割合の増加が続き、2020（令和 2）年には年少人口割合が約 10%、高齢人口割合が約 36%と少子高齢化が進行しています。

■行方市の人口推移



出典：総務省統計局「国勢調査」

■行方市の年齢 3 区分別人口割合推移



出典：総務省統計局「国勢調査」

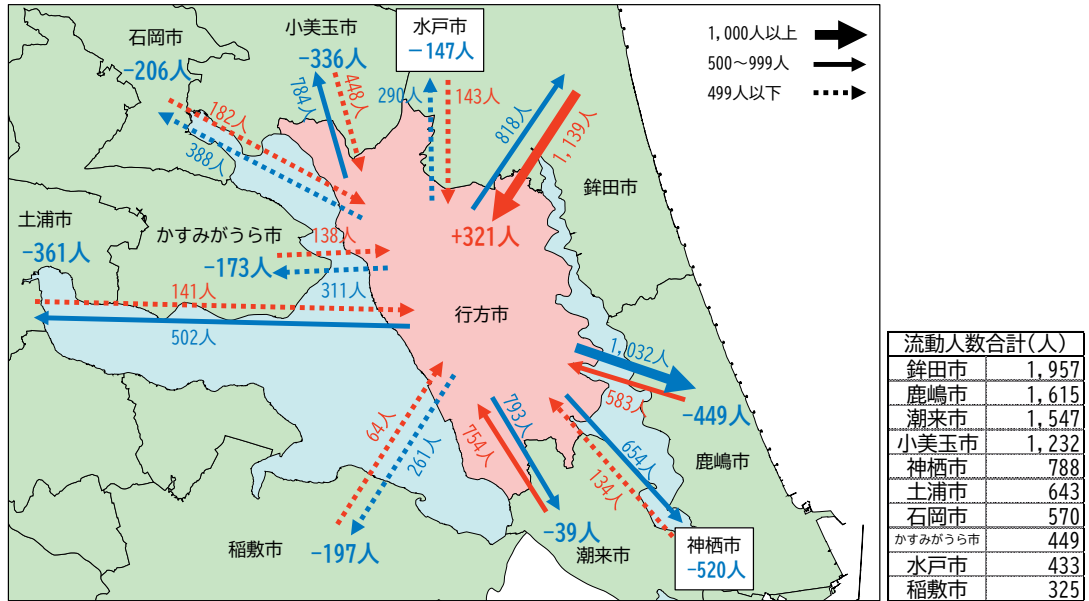
②通勤・通学流動

行方市と人的な結び付きのある市町村を把握するため、通勤・通学流動を見ると、銚田市、鹿嶋市、潮来市、小美玉市という隣接市との流入出が特に多いほか、神栖市、土浦市、石岡市、水戸市という県内主要都市への流動が多く見られます。

■行方市の主な通勤流動

通勤流動は、銚田市からの流入超過以外は他市町村への通勤流出が多く、神栖市、鹿嶋市、土浦市などへは流出超過となっています。

通勤流動図

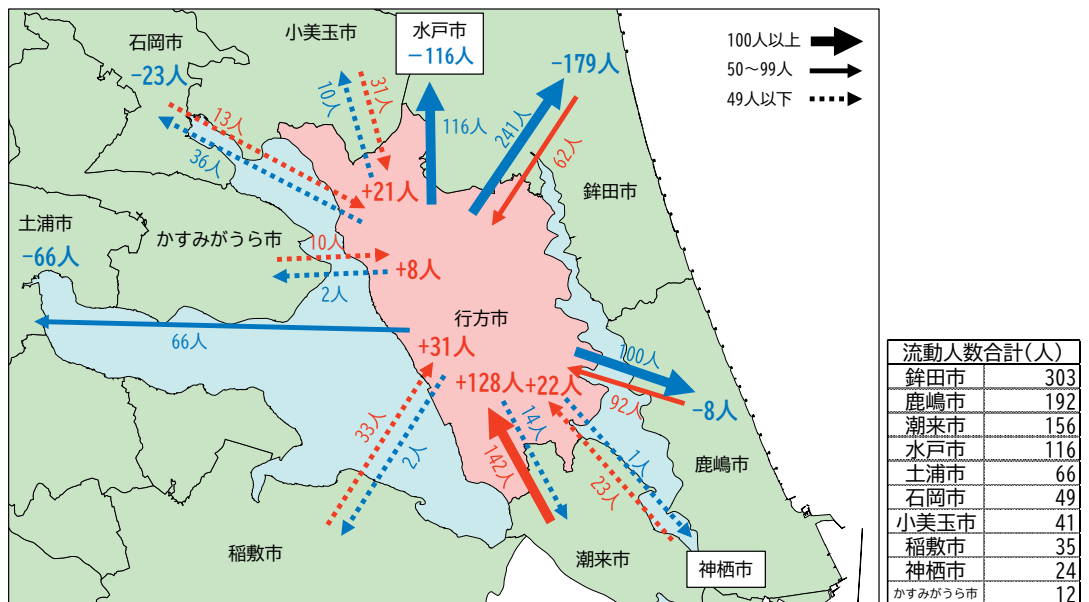


出典：総務省統計局「国勢調査」(令和2年)

■行方市の主な通学流動

通学流動は、潮来市、稲敷市、神栖市など流入超過の市が複数ある一方、銚田市、水戸市、土浦市などへは流出超過となっています。

通学流動図



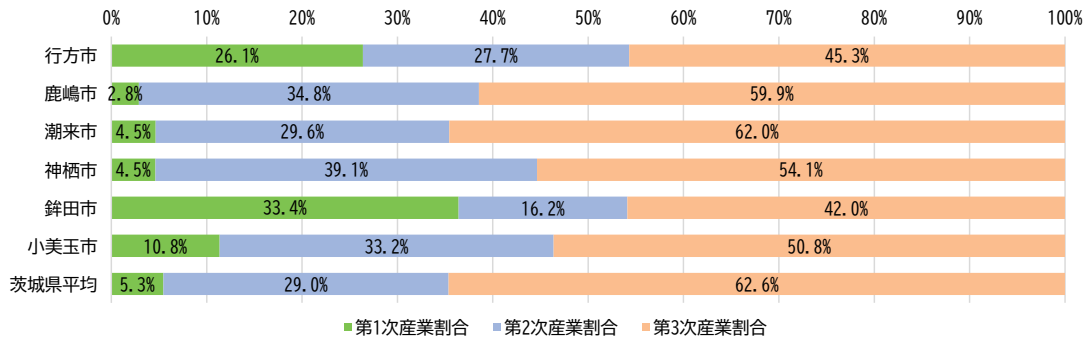
出典：総務省統計局「国勢調査」(令和2年)

(5) 産業

①産業3区分別従業者数割合

行方市内で勤務する従業者数割合を見ると、第1次産業は26.1%で県内平均を大きく上回っています。第2次産業は27.7%、第3次産業は45.3%となっています。

■産業3区分別従業者数割合（従業地別）

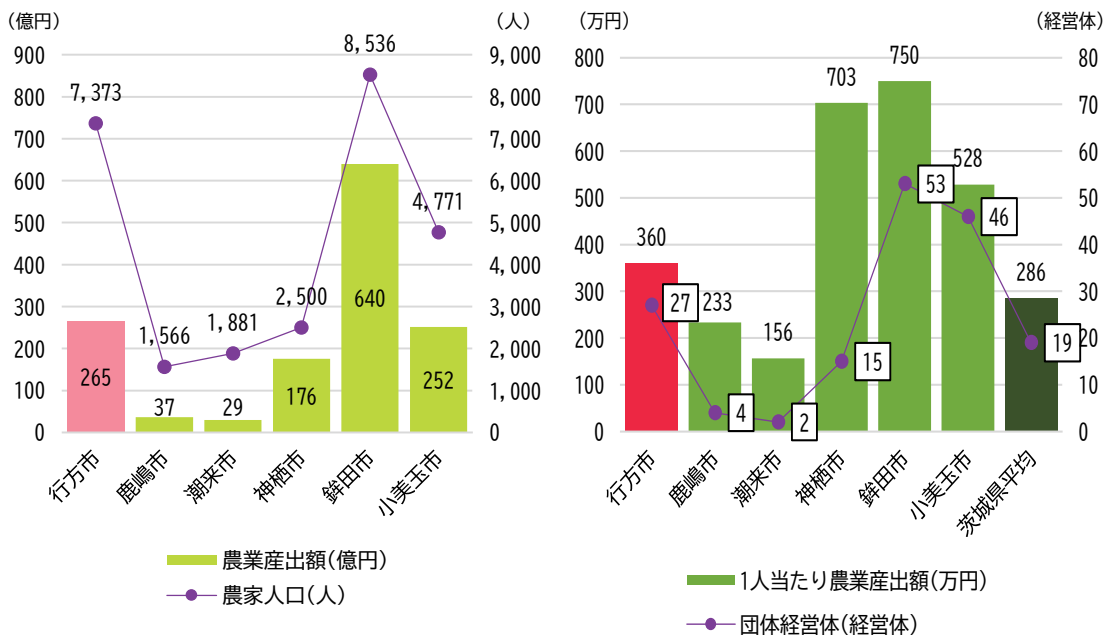


出典：総務省統計局「国勢調査」（令和2年）

②農業

行方市の農業産出額は265億円で、銚田市に次いで県内で2番目の水準となっています。農家人口は7,373人、1人当たり農業産出額は360万円です。産業構造が近い銚田市と比較すると、農家人口に比べて1人当たり農業産出額と団体経営体数が少ない構造となっています。

■2020（令和2）年の農業産出額および農家人口比較

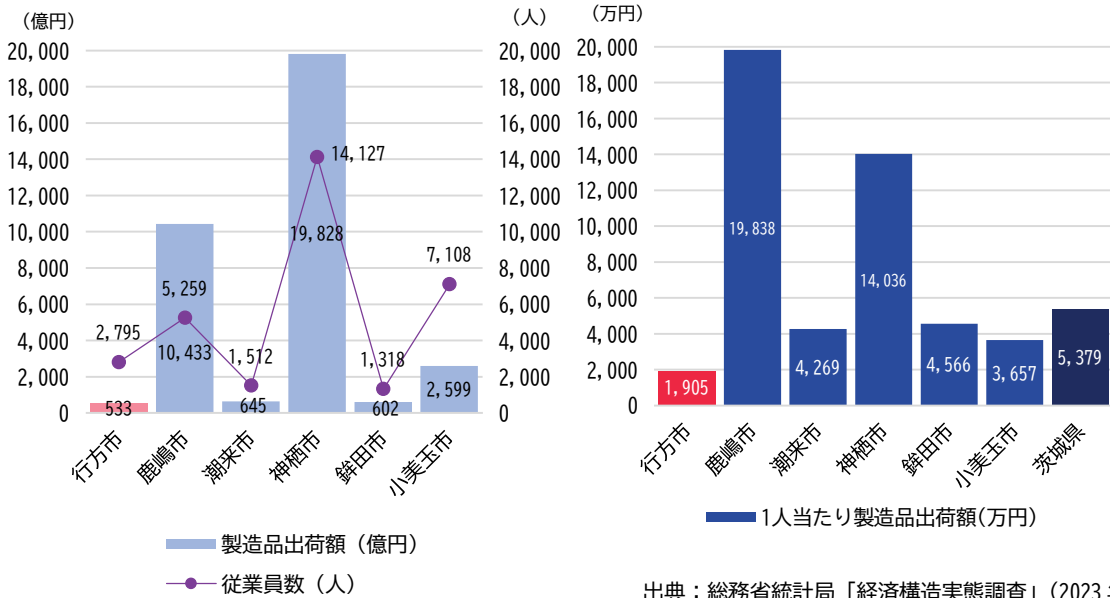


出典：【農業産出額】農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」（令和2年）
 【農家人口】【団体経営体数】農林水産省「農林業センサス」（2020年）

③工業

行方市の製造品出荷額等は 533 億円、従業員数は 2,795 人、1 人当たり製造品出荷額等は 1,905 万円となっています。近隣市と比較すると、工業の占める割合は低くなっています。

■2022（令和4）年の製造品出荷額等および従業員数比較

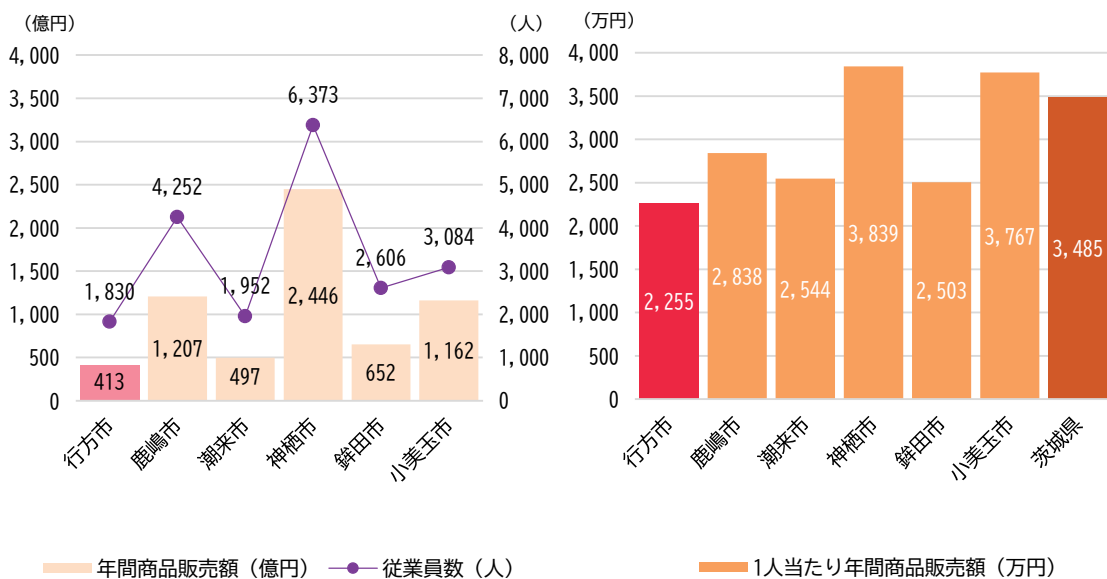


出典：総務省統計局「経済構造実態調査」（2023年）
※従業員数4人以上の事業所による集計

④商業

行方市の年間商品販売額は 413 億円、従業員数は 1,830 人、1 人当たり年間商品販売額は 2,255 万円となっています。近隣市と比較すると、商業の占める割合は低くなっています。

■2021（令和3）年の年間商品販売額および従業員数比較

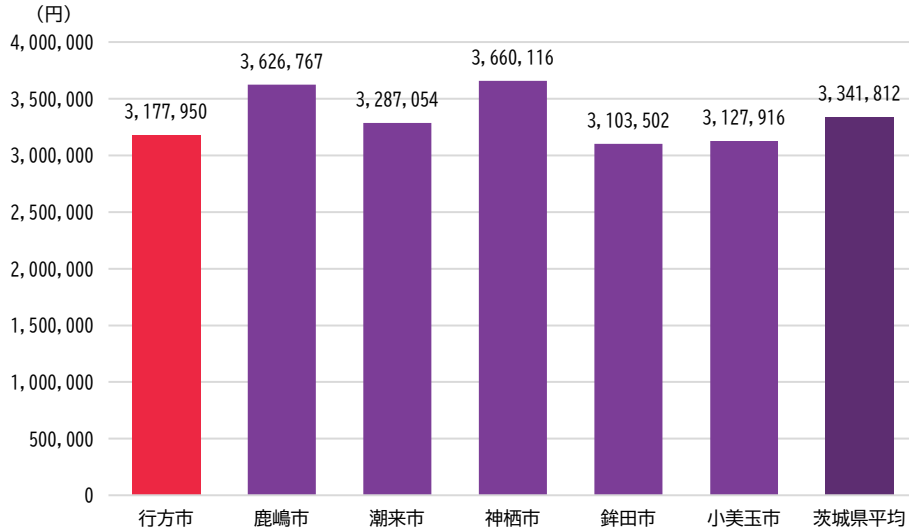


出典：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」（令和3年）

(6) 所得・財政状況

①平均所得

行方市の市民平均所得は 3,177,950 円で、潮来市、銚田市、小美玉市と近い水準です。

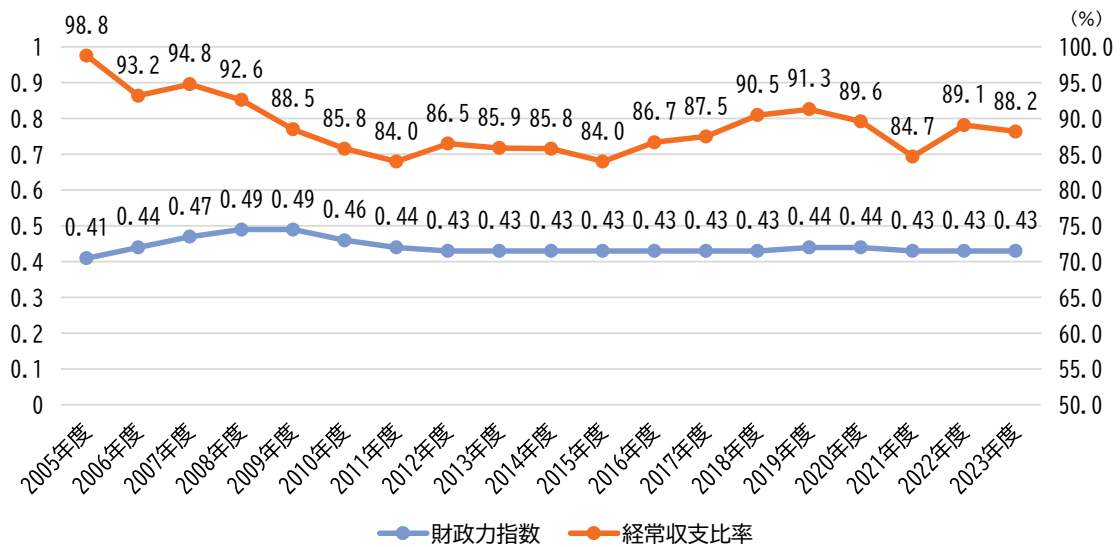


出典：総務省「市町村税課税状況等の調」（令和6年度）

②財政状況

行方市の財政力指数（※1）は 0.43 付近で推移しています。地方自治体の財政弾力性を示す経常収支比率（※2）は 2023 年度で 88.2%となっています。

■財政力指数及び経常収支比率の推移



出典：行方市「財政指標の状況」及び「財政状況資料集」

※1 財政力指数

地方公共団体がどの程度、自前の収入（自主財源）で財政運営を行う能力があるかを示す指標です。財政力指数が 1 に近い、または 1 を超えるほど、その地方公共団体は自主財源が豊富であり、財政的に自立していると判断されます。

※2 経常収支比率

人件費、扶助費、公債費など毎年必ずかかる経常的な経費に一般財源（地方税、地方交付税など）が充当された割合です。一般的に市では 70～80%程度が健全とされ、高いほど固定支出が多く、新規施策等への財源が少ないことを示します。

2025年度 第20回行方市輝く未来展 絵画の部

市長賞より



題名：四つの世界
麻生小学校 5年 山口 晴渡さん



題名：うみのそこに行きたいな
麻生東小学校 1年 小林 和真さん

※「輝く未来」として、多様な表現スタイルで創作された作品です。